

将来都市像について

●位置づけ

- 基本構想の計画期間を 20 年間とし、概ね 2040 年を展望した将来都市像を設定します。
(2040 年とは)
 - 団塊ジュニア世代が高齢者となることが見込まれます。(社人研推計：高齢化率 34・6%)
 - 団塊ジュニア世代は就職氷河期にあたり、単身者の増加や、公的扶助を必要とする高齢者の増加が見込まれます。
 - 介護・医療需要の増加、認知症の増加、移動が不自由な市民の増加等の影響が見込まれます。
 - 「生涯 100 年時代」となり、自由な時間が増える市民が増える可能性があります。

●将来都市像の検討の方向性

- 部会での審議を踏まえると、次のような大きなまちづくりの方向性が見出されてきたと思われます。

第 5 次総合計画	第 6 次総合計画
住宅都市として発展	住宅都市 + 様々な活動をする場所 へ発展
大阪へ通勤する暮らし	多様な生き方・暮らし (自分らしく生きる)
【強み・特徴】 ・住宅供給 ・大阪への通勤アクセス ・緑環境 ・学研都市 (第 1 工区) ・市民による活動 (但し後継者問題あり)	【活かしたい・伸ばしたい・作りたい強み・特徴】 ・住宅供給 + リノベーション (住まい以外の用途にも活用) ・大阪への通勤アクセス + 通勤以外アクセス (奈良・京都・神戸・関空・名古屋・東京) ・緑環境 + ・学研都市 (第 2 工区) ・働く場所 (市内に住み、働く／生駒に通勤する) ・観光・体験する場所 (高山茶釜等の活用) ・社会とつながる活動・場所 (市民力)
【将来都市像】 市民が創る めくもりと 活力あふれるまち・生駒	【将来都市像 (候補)】 (これまでの案) ① 『市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒』 ～イマを超える イコマを超える～ ② 『市民が創る めくもりと活力あふれるまち・生駒』 ～未来に駒を進めよう 創生のまち～ ③ 『彩りあふれる未来へ続く 市民が創る住宅都市』 ④ 『100 年先も つづき つながり つむぐまち』 ↓ (新たな候補) A 『みんなで創る 未来へ続く 進化する住宅都市』 B 『自分らしく輝けるステージ・生駒』 C 『自分らしい暮らし方に出会えるまち』 D 『やりたいコトを応援してくれるまち』